

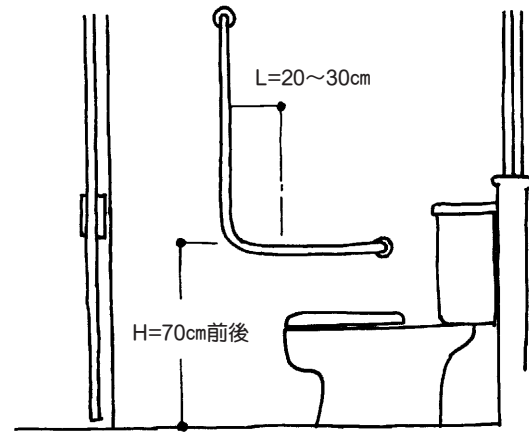
便所

排泄行為の自立は、高齢者の心理的見地からみても最も大切です。

使用は昼夜を問わず、特に夜間の使用に際して、家族への遠慮がないように水洗の音が外へ響かないように配慮するとともに、杖歩行・車いす・介助方法などについても充分考慮し、細部にわたる配慮が必要です。

リフォーム指針

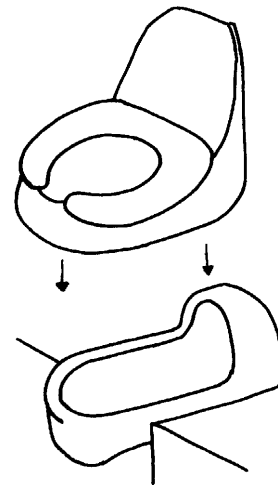
- 高齢者の寝室の近くに設ける。
- 夜間の使用を考えて、寝室からトイレまで足下灯や灯り付きスイッチ(ホタルスイッチ)を設置する。
- 身体機能、便座への移動、介助方法を考慮したスペースを確保する。
- 便器への移動方法により、適切な位置に手すりを設ける。
- 床はできるだけ同一レベルとし、小さな段差は解消する。
- 建具は、できる限り引き戸にする。
- 出入口の開口幅は、有効80cm以上確保する。
- 取っ手・引き手金具・鍵は操作のしやすいものにする。
- 事故にそなえて外からでも解錠できるものにする。
- 床は、濡れても滑りにくい材料で仕上げる。
- 具合が悪くなった場合、通報できるように、非常ブザーを設ける。
- 手摺の取付け位置高さは、使用者の身体状況に合わせて決定する。



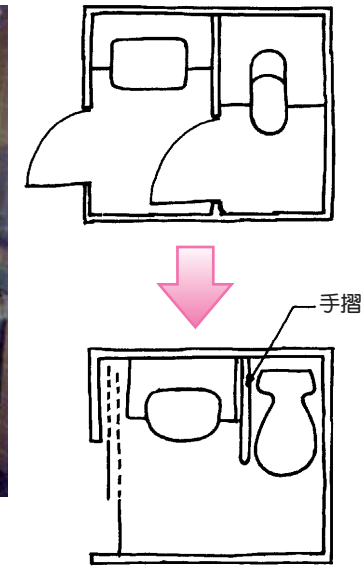
手すりの設置例

改造のポイント

兼用和式トイレにポンと置くだけで腰かけ便座となる。



▲洗面所と便所を一体とした便所



改造のポイント

間切りを撤去することで介助等の空間を確保する。

- 2枚引込み戸にして出入口の幅を広くしている。

改造のポイント

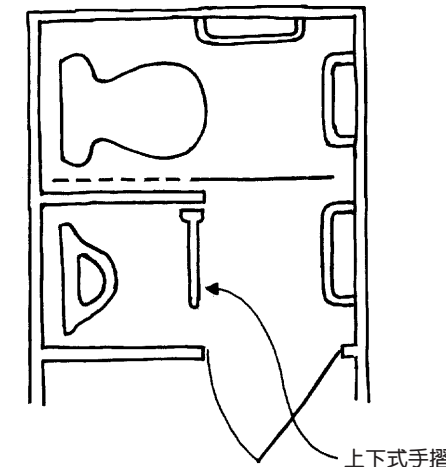
片手が不自由な方は、行きと帰りでは、つかまる手摺位置が違うので両側に手摺が必要。

★改造のアドバイス

上下式手摺の取付部分は、使用しているうちに固定度が不足する場合がありますので、常に点検すること。



▲小便器前に上下式手摺を設置



上下式手摺

改造のポイント

疾患により便座への着座及び立ち上がりが不自由な方を対象にした電動式昇降便座です。

改造のポイント

賃貸住宅でも可能です。



▲置型式手摺



▲電動簡易昇降便座設置